

令和 7 年度
第 1 回 南相馬市総合教育会議

令和 7 年 8 月 2 2 日（金）

南 相 馬 市

令和7年度第1回南相馬市総合教育会議 会議録

1 開催日 令和7年8月22日（金）

2 場 所 市役所 本庁舎3階 第一会議室

3 会議時間 開会 午後 3時00分
閉会 午後 4時45分

4 出席者

市 長	門馬 和夫
教育長	大和田 博行
教育長職務代理者	高野 恵以子
委 員	金子 まゆみ
委 員	山邊 彰一

5 欠席者

委 員	和田 菜子
-----	-------

6 説明のため出席した者の職氏名

（教育委員会事務局）

教育委員会事務局長	宝玉 光之	次長兼教育総務課長	熊坂 真利
教育総務課総務係長	羽山 勇作	参事兼学校教育課長	村上 潤一
参事兼指導主事	亀田 邦弘	教育企画担当課長	加藤 安枢子
生涯学習課長	鈴木 隆一		

（復興企画部）

復興企画部長	渡辺 裕	参事兼企画課長	寺島 政博
企画課長補佐	内城 弘志	企画課副主査	目黒 将也

7 傍聴者

（なし）

8 本日の会議に付した報告事項

- （1）令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析について
- （2）その他

9 本日の会議に付した協議事項

- （1）令和6年度主要施策（教育委員会所管）の評価について
- （2）その他

10 本日の会議に付したその他事項

令和7年度第2回南相馬市総合教育会議の開催について

【配布資料】 別添のとおり

- (1) 会議次第・名簿
- (2) 令和7年度第1回南相馬市総合教育会議について 資料1
- (3) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果概要 資料2-1
- (4) 令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果概況 資料2-2
- (5) 全国学調経年比較資料（H19～R7） 資料2-3
- (6) 令和7年度サマーレビュー結果 資料3
- (7) 議論ポイント 資料4
- (8) 小・中学校における不登校の状況について 資料5-1
- (9) 令和5年度・令和6年度長期欠席者数に係るデータについて 資料5-2

午後3時00分 開会

■参事兼企画課長

只今より、令和7年度第1回南相馬市総合教育会議を開催いたします。

本日、会議の進行は企画課の寺島が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでははじめに門馬市長よりご挨拶申し上げます。

■市長

皆さんこんにちは。令和7年度第1回南相馬市総合教育会議にご出席賜りまして、また、日ごろより教育行政、市政全般にご協力いただいておりますこと、改めて、御礼申し上げます。

この総合教育会議は国で定めた制度ではありますが、南相馬市の「100年のまちづくり」においても、一丁目一番地に教育への取組を掲げております。教育行政において、一つは、長年かつ国全体の流れを踏まえ、こどもたちへの教育をどうするのかという視点、もう一つは、南相馬市の生き残り・発展のために、教育・こどもたちの人づくりが大切であるという視点の両面があると思います。

そういう意味で、自由闊達な意見交換を行いながら、より良い南相馬市の教育の姿を見つけていこうという国の趣旨であろうと思いますし、市としても大変ありがたい制度だと思っています。是非、忌憚のないご意見等を受け、より良いものにしてまいりたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日は報告事項として「令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析について」の意見交換が一つ、もう一つは「令和6年度主要施策の評価について」ということで令和6年度決算についてですので、教育行政がどのように行われ、どういう進捗状況なのかということをご説明申し上げて、協議のねらいは、過去の決算も去ることながら、令和8年度予算編成にどう生かしていくかということで、今の時期に評価

をするというものであります。過去がどうだったのかということに加えて、例えば「〇〇だから来年こういうところを重点的にやるべきだ」や「ここは順調に進んでいるな」というようなご意見をいただいた上で、教育委員会事務局の方で新年度の事業を計画する際の一つのたたき台になるというような意見交換の場でございますので、活発なご議論を遠慮なく、自由をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■参事兼企画課長

次に「3 出席者の紹介」に入ります。

本日は令和7年度第1回の会議でございまして、事務局においても4月の人事異動がございましたので、委員の皆様とともに、事務局職員についてもご紹介をさせていただきます。

(出席者 紹介)

■参事兼企画課長

次に「4 報告事項」に入ります。

「南相馬市総合教育会議設置要綱」第4条第1項の規定により、これより市長が「議長」となり進行することとなりますので、よろしくお願いいたします。

■市長

しばらく進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、報告事項「(1) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析について」、事務局から説明をお願いします。

(参事兼学校教育課長 説明)

■市長

確認ですが、「資料2-1：令和7年度全国学力・学習状況調査の結果概要」は後日公表予定、「資料2-2：令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果概況」及び「資料2-3：全国学調経年比較資料」は非公表という認識でよろしいでしょうか。

■参事兼学校教育課長

そのとおりです。

■市長

「資料2-1」の教育委員会での分析結果はさておき、「資料2-2」からはどのような本市の傾向を読み取ることができるのでしょうか。

■参事兼学校教育課長

「資料 2-2」では、令和 7 年度全国学力・学習状況調査の正答数ごとの人数割合に係るグラフ（全国平均及び福島県平均も併記）をお示ししています。

「小学校／国語」については、正答数 1 問から 7 問までであった児童の割合が全国平均を上回っており、本市が成績下位層から中位層の児童が多く、正答数 10 問以上の児童が全国・県と比較し少ない状況であることが分かります。

「小学校／算数」については、正答数 4 問から 7 問までであった児童の割合が全国平均を大きく上回っており、上位層と下位層に二分し、中位層及び最上位層（15 問・16 問正答）が少ない状況であることが分かります。

「中学校／国語」については、ほぼ正規分布になっていますが、2 問しか正解していない生徒の割合の多さが目立っています。

「中学校／数学」については、そもそも設問が難しかったものと思われますが、全国・県についても 1 問から 5 問しか正解していない生徒が多い中、本市においても正答数 2 問から 5 問、さらには 1 問も正解しなかった生徒の割合が多かった状況です。こちらについても、上位層と下位層に二分してしまっているもの捉えています。

■市長

実際の調査結果に基づき子どもたちの成績についての分布を見ることができるのが、「資料 2-2」ということですね。

続けて、「資料 2-3」についても改めて説明をお願いします。

■参事兼学校教育課長

「資料 2-3」については、全国平均正答数との本市（及び福島県平均）との差を年度別の推移で見ることができるグラフとなっております。グラフの基軸（0）が全国平均ですので、基軸よりも下であれば全国平均に至らなかったことになります。

本市の結果について、「小学校／国語」では令和 6 年度と比べて下がってしまったが、「小学校／算数」では令和 6 年度よりかなり上がって全国平均に近づいたことが見て取れます。

なお、平成 30 年度までは基礎・基本知識を問う A 問題と、活用力を問う B 問題に分かれていたことから、特に（現行の）平成 31 年度以降のグラフを見ていただくと、近年の傾向がよく分かるかと思います。

中学校については、令和 5 年度から令和 7 年度にかけ、かなり全国平均に近づいています。それから、課題としていた数学についても、令和 7 年度にかけて全国平均・県平均に近づいていると捉えることができます。

■市長

「資料 2-1」の中で成績が向上した原因についての分析があったと思いますが、こちらについて、改めて説明をお願いします。

■参事兼学校教育課長

本市では、「南相馬市の授業スタイル」ということで、全校同じように学習を進めていく、つまり、こどもたちが「できそうだな」「やりたいな」という課題を与えて、その課題について自分で考えたり、友達と意見を交換したりしながら行う課題解決、さらに、分かったことをまとめ、理解をさらに深めていこうという振り返りという各段階を大事にしながら授業に取り組んできました。

これら取組がやっと定着し始めたことが、全国学力・学習状況調査の成績が向上した一因ではないかと考えています。

■市長

その「南相馬市の授業スタイル」はいつから始めているのですか。

■参事兼学校教育課長

平成27年度と記憶しています。

■市長

ちょっと厳しいようですが、「数学の成績が上がった」からそのように分析しているということですか。

■参事兼学校教育課長

本市は数学に課題があり、この授業スタイルは算数・数学に対する問題解決的な学習の流れとマッチするので、このスタイルを継続してきたことが功を奏しているものと考えており、コロナ禍の影響もあり一時期落ち込んだ部分はあるとは思いますが、コロナ渦後、通常の学校生活ができるようになってきて、その授業スタイルがまた改めて、定着し始めてきているものと捉えているところです。

■市長

以上が事務局の見解のようですが、委員の皆様よりご質問・ご意見はございますか。

■高野教育長職務代理者

夏休みに開催された英語・数学の講習や保護者向けの講義に対し、参加者が少なかったことが気になっていました。せっかくこういう機会があるのになかなか参加しないというのはもったいないし、それが児童生徒の自己肯定感の低さにも表れており、こどもたちの全体的な雰囲気として、意欲がない、弱気な感じがしています。

意識を高めていけば、より一層勉強に取り組んでいけるのかなと思っており、例えば「資料2-1」の調査結果により塾に行っていないお子さんが多いことが分かりますが、それであればせっかく市で用意している講習に参加すれば良いのにと感じました。

■金子委員

市が教育に関して力を入れていることは大変ありがたいなと思っていて、それらが保護者の方々に伝わっていない、はたまた興味がないのかはもったいないというのが一番の感想です。

保護者の意識を高めるためにはどうしたら良いのか、保護者自身に何が足りず、どのようにこどもに接すれば学力を高めることができるのか、私も含め、分からない保護者も多いと思うので、具体的な方法を示してほしいと感じています。

また、私はクラブチームにおいて小・中学生の保護者と接する機会がありますが、進路選択において、この地域でまずやれることとしては「高校進学」だと思いますが、どうしても入れてしまう状況とといいますか、「勉強しなくても入れる」「勉強したくないから原町高校には行かない」というような意識の保護者の方やこどもがとても多いというのが実感です。もう少し上を目指したほうが良いのではないかと、答えは出ないものの普段から感じております。

■山邊委員

教育委員向けの研修会へ2日前に出席し、私が参加したグループは「学力向上」がテーマでした。その中で、南相馬市はじめ相馬地方のことを話す機会がありましたが、相馬地方の現状を考えると、児童生徒の学力向上に資する教員の状況について考えなければいけないのかなという意見が挙がりました。

相馬地方、特に双葉の場合、中通りやいわきに移住した先生も多い状況の中、相馬地方出身の教員の割合が少なく、これは、中通りやいわきの方から先生が来て数年で地元に戻ってしまうという本市の授業スタイルが定着しない状況を生んでいます。その中で、教育委員会としては、ここ2年ほどは南相馬市に初めて勤務する教員に研修会へ参加していただいて、本市の授業スタイルを学び、実践へ結びつけていただくということをしてきています。

これらを踏まえ、「算数・数学」に少し上昇傾向が見られることは良い結果だなと思いましたが、「資料2-3」で過去からの推移を見ると、例えば「国語」は教育長や私が現役で教員を務めていた平成27、28年度ごろの良い成績からなぜ成績が落ちてしまったのか考えていかなければならないと思います。

同研修会では他に、コロナ渦以降、教員同士でのコミュニケーション（学ぶ・伝え合う）が無くなってしまったとの意見も挙がりました。一方で、新地町や南相馬市ではICT関係が進んでいて、他市町村よりも早く全教室・理科室に機器が導入されています。新地の場合はタブレットの家庭持ち帰りほか施策を早い段階から実施してきたことが成績に実を結んでおり、教育環境の充実具合が保護者にも十分伝わっていると聞き及んでいます。他方で南相馬の状況を見たときに、「こういったところがすごく充実している」「だからこどもたちに頑張ってもらおう」といった啓発的な動きも必要なのかなという風に思いました。

さらに同研修会では、コロナ渦以降「熱い」教師が少なくなってきていて、「冷めた」教師が増えているという意見も挙がりました。「熱い」教師が全て良い訳ではないですが、こどもたちが今取り組んでいること・勉強に対しても、もう少し教員もエネ

ルギーが大きければ良いなど。部活動等様々活躍しているこどもたちと教員のコミュニケーションや繋がりをより熱く太いものにしていけたら良いなと思いました。

■市長

ありがとうございます。

教育長については事務局で説明したとおりのご見解かと思いますので、最後にご意見等あればいただこうと思います。

私から心配事項を一つ。高校進学について、原町高校、相馬農業高校、小高産業技術高校ではなく、ふたば未来学園、相馬高校、それどころか県外へ行ってしまうこどもが増えているのではないのでしょうか。

一生懸命な家庭のこどもほど県外に行ってしまう。今までもお医者さんのこどもは本市に連れてこない傾向は分かっていたが、各種数字を調べる中で、成績トップの子が県外に進学（全体の5%程度）する傾向にあると感じています。元々南相馬市に來ないのは諦めるけど、南相馬市の優秀なこどもや意欲のあるこどもが、大学はともかく、高校の段階で外に出て行ってしまう状況は正直悩ましいところ。

そのような背景で、南相馬市では前市長の時から継続的に「学力向上」を掲げてきました。しかし、「資料2-3」の結果が南相馬市の実力なのだと思います。例えば、小学校は震災の後でも結果は良かった。様々な分析はあると思いますが、少人数学級だったのが要因かもしれません。

福島県の結果は特に最近ひどいし、福島県と比較しては端から駄目で、全国と勝負しないといけません。南相馬市では「小学校／国語」は以前良かったのが一気に下がっていますし、「小学校／算数」も上昇傾向にはありますが、全国平均には届いていない状況です。「中学校」は震災の前後を通して低く、悲惨とも言えます。これらが南相馬市の実力だと思います。

一方で、学校側の努力の下、先生方の指導力向上もしっかり取り組む必要はありますが、時間もかかるしそれだけではおそらく駄目だと思います。一番は「家庭教育」が重要であると考えています。このような市の学力の現状について保護者の方々は分かっているのでしょうか。こういう悪い結果を見せてしまうと、悲観的に受け取られてますます市外に進学してしまうという考えもありますが、一つの結果として隠してはいけないと思います。併せて、南相馬市の教育の良いところのアピールも必要でしょう。

私は、この地域での学校の教育が悪いから成績が悪いという訳ではなく、保護者はじめ家庭教育における歴史・文化の問題が大きいと思っています。これまで本市は秋田の教育スタイルを参考にしていたりしましたが、正直結果が出ていないのではと疑っています。保護者に現状を知ってもらって、共に問題意識を持ってもらうことから入った方が良いのではないのでしょうか。

今回の全国学力・学習状況調査の結果（資料2-2、2-3）は非公表とのことですが、「公表したい」のが本音です。そのまま公表しては驚かれてしまうでしょうが、それでも、この現状は由々しきことだと思います。

本日の会議で結論が出るとは思いませんが、キーワードは様々出ました。講習や各

種取組への参加者が少ないというような子どもたちの意欲の問題・保護者の意識の問題。保護者の意欲を高める方法。先生方の現状。悪い事ばかりではなく、南相馬市の良さ、学力向上とは異なるが海外研修の実施、備品等の学校環境の良さを自己評価に留まらず、先生方へ聞き取りも含め客観的に示しつつ、学力の現状を伝えた上で、仮説を立て、今後どのようにしていきたいといったところまでセットで考えることができれば良い。1～2年は要するかもしれない。

ホームページでの公表はともかく、ここ何年間かずっと国、福島県を下回っている結果を見てもらい問題意識を共有するようなことからやらないといけない。なかなか行政側だけで対応というのは難しいのではないかなと私は思っています。

以上、本日は「報告事項」ではありますので、意見として述べさせていただきます。総括として、教育長から何かございますか。

■教育長

学校では授業の改善はされてきて、子どもたち主体の授業になってきていると思っています。その分、昔と比べたら、「練習」「適応」「習熟」のための時間がなかなか取れず、代わりに今日の授業を振り返って自分はどのような学びができたのか、友達とどういうところが良かったのかなど、「振り返り」の時間を取っています。

そうしますと、「練習」「習熟」の時間を取るためには、家庭に協力してもらうしかないと考えています。ところが、家庭によっては全くそういう環境にない家庭もあると推測しています。そのため、生涯学習課で塾との連携をさせていただいてご案内はしていますが、例えば、保護者の方向けの講演会に全保護者に案内して結果14名ほどしか来なかった。しかもほとんど市役所職員。保護者の意識改革は難しいので、やはり子どもたちの意識を変えて、子どもから保護者の方に働きかけてもらうようにしていかなければいけないと思います。

教育委員会としては、様々な体験活動を通じて、子どもたちのキャリア教育を進めることによって、学校に入ることが目的とならないよう、「将来こんなことをやってみたい」「これ面白そう」という意識づけが大事なんだろうと考えています。

例えば、文化財課の事業で化石のレプリカ作りに100人以上集まりました。また、図書館の事業で理科の実験に80人ほど集まりました。やはりそのようなことに興味のある方はいるので、学校教育課に限らず、教育委員会全体として根気強く活動をしていかななくてはいけないものと捉えています。

また、今年から生涯学習課では、中学校におけるこどもハローワーク事業を展開していますが、例えば、高平生涯学習センターでの地域学校協働活動に、原町第二中学校の卒業生だけでなく鹿島区の子どもたちが来るなど、「自分が卒業した学校だから行く」ではなく「そういう活動をしたいから行く」といった子どもが出てきていることも踏まえ、キャリア教育の一環としてはこのような取組を進めていく必要があろうと感じております。

国の方は過度な競争をやめるようにということで、成績の公表の仕方、学校単位での比較をやめる方向に進んでいますが、市長からお話があったように、本市の実態を考えたときに国の方針を真に受けるだけでなく、校長先生方との議論の余地はあると

思います。

最後に、中学生には何としても大学生との接点を作ってほしいとのことで校長先生方にはお伝えしています。教育実習に来た学生から「今大学でこのようなことをしている」「大変だけど中学・高校でこのように過ごさないといけない」というようなアドバイスを実習の場に限らず、二十歳を祝う会で帰省しているタイミングなど、講演みたいな機会を別途設けて中学生たちに向けて話をしてほしいと。一方で、小学生に対しては身近な高校生との接点を作っていきたいと考えています。

■参事兼学校教育課長

一点補足させていただきます。今ほど成績の公表の是非が話題となりましたが、全国学力・学習状況調査については、今年度から学校毎の数値は公表しないこととし、市全体の数値は公表の上、学校はその成果と課題について、言葉で表現することとしました。こちらは、学校によっては人数が少ないため個人特定、比較されることを避けるためです。

■市長

教育は、国の方針があり、国の強い指導の下、執り行われるという大前提があります。一方で、国は総合教育会議の制度を設けている訳であり、全国と本市で実態があまりにも違う現状を顧みたとき、国の方針に従うだけでなく、市としても努力しないといけないし、市としての活動が必要ではないかと思います。

教育委員会としては国から「比較するな」「公表するな」と言われ苦しいのは察しますが、国の方針のとおり学校での教育を行ってきても成績が良くなっていないのだとすれば、保護者に実態を知ってもらった上で家庭の役割が大事だと思います。

教育長のおっしゃる、学校側で「何とかしよう」「こどもたちにアプローチしよう」という取組も一つ。ただ、家にいる時間の方が長いので、家庭での学習が更に重要で親御さんに責任があることを、責任逃れとしてではなく、教育委員会として当たり前のように訴えても良いのではないかと思います。

保護者に対し「これは絶対やらせてほしい」「なぜやらせないのか」「このまま高校・大学進学した後に苦労する」ということを遠慮せず伝えていく必要があると感じています。

■教育長

家庭学習に関しては、昨年PTA役員の方との話し合いの中で、家庭での過ごし方について、教育委員会・学校・PTA連名でプリントを作成してはどうかとのことで、その後、分かりやすいプリントを配布しました。

今年も役員の方との話し合いの場では、本市の学力の近況を伝えています。

■市長

そのような取組をもっとやっても良いかもしれないですね。

■教育長

保護者対象の講演や生徒に向けた講習への参加が少ない実態も知らせていかなくてはいけないと思います。

■市長

保護者の方々へ、南相馬市は下位層・中位層が多い現状も上手に伝えていただければ幸いです。

その他、ご意見等なければ、以上で、報告事項「(1) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析」について、終了します。

報告事項「(2) その他」について、事務局からあるでしょうか。

(「なし」の声)

■市長

以上で、「4 報告事項」を終了します。

次に「5 協議事項」に入ります。

協議事項「(1) 令和6年度主要施策(教育委員会所管)の評価」について、事務局から説明をお願いします。

(企画課長補佐 説明)
(参事兼学校教育課長 説明)
(参事兼指導主事 説明)
(生涯学習課長 説明)

■市長

「資料3 令和7年度サマーレビュー結果」P9を見ますと、不登校の児童・生徒の割合が小学校・中学校両方とも増えていますが、この増え方が、小学校は目標値で0.82%に対し2.43%、中学校は目標値2.50%に対し7.23%というように少しどころではなく3倍もの数字になっており、特にここ2、3年で一気に伸びてという結果になりました。国でも上昇傾向になっているようです。

そこで、学校での居場所として「スペシャルサポートルーム」というものがあるという説明でしたが、どこの学校にもあるのですか。

■参事兼指導主事

本市では、県費負担(市は1/3負担)で全ての中学校にスペシャルサポートルームとして人員を配置しています。福島市でも同様の取組を行った上で、令和5年度から令和6年度にかけて不登校児童生徒が減少しているとのことです。

■市長

南相馬市は、福島市と同じ取組をしているものの不登校児童生徒は増えている。要

は必ずしも居場所の不足が不登校増加の原因ではなく家庭に原因があるのではないかと事務局での分析でよろしいでしょうか。

■参事兼指導主事

そのとおりです。

■市長

以上が事務局からの説明です。

委員の皆様より、令和8年度に向けて力を入れてほしい点、懸念点など、ご質問、ご意見ございますか。

■山邊委員

先述の研修会においては、教育の分野における「分業」についても話題にあがりました。担任・教師とは違った形でサポートする人員が必要なのだろうと思います。おそらく、担任の教師がクラスの授業をしなければいけないのに、不登校児童生徒まで面倒を見るのは難しい。だからこそスペシャルサポートルームやカウンセラーが配置されていますが、それでも不登校児童生徒の割合が増加している状況なので、システムを変えていく必要があるだろうなと思っています。

一方、教育委員会の方と連携して、支援センター「やすらぎ広場」にて不登校児童生徒の対応をしています。各小・中学校に配置されているカウンセラーとも連携を深めていく必要があると思います。更に言えば引きこもってしまっているこどもについて、教員はもちろん、保護者更にはカウンセラーでも話に応じてくれない場合もある中、分業はしながらも、お互いに連携を図っていかないと、こどもたちの人格形成や自立の面で厳しい状況が続くのではないかと思います。

■金子委員

教育水準の向上についてですが、こどもたちは勉強以外のところでもものすごく頑張っている面もたくさんあると思います。

今、学校ではプラスの要素（新しいツール、タブレット、電子黒板、教材等々を与えること）が多すぎて、こどもたちはこれに対応していけてるのかなと感じています。プラスの要素だけでなく、どこかを引いてあげて、ちょっと気持ちを楽にさせてあげることも必要ではないでしょうか。

例えば、市内全校で一日だけでも宿題のない日を作ってはどうかという提案を以前の総合教育会議でもしたことがあります。少子化により市内3区含め合同のクラブチームで活動する中で、こどもたち同士での付き合いや情報交換の機会も増える状況において、宿題のない日に思い切りクラブ活動や習い事に専念することで、プラス要素、与えることだけでなく引くことによって、もう少し勉強を頑張れるのではないかと考えています。

■高野教育長職務代理者

不登校児童生徒の割合が増えている点や、学校訪問の中で学習支援が必要な子どもが増えている点が現在気になっています。

それらに対して市で支援をしていただいているのは承知していますが、一方で、市長から学力の高い子どもを中心に県外に高校進学してしまうという話がありましたが、最近は通信制の高校に進学するという話を身近でよく聞きます。地元の高校に通ってもらえたら良いなと思いつつ、この点も南相馬市の課題であると思います。

■市長

ありがとうございます。

本日話題に挙がった「家庭の役割」と「不登校」は繋がっているのかもしれませんが。本来子どもを育てるということは、家庭・学校・地域が一体となって行うものだと思います。学力向上や不登校にしても特に家庭の役割が大きいのではないかと。

いくら3年から5年で異動する中で、先生次第で突然成績が下がるなんてことはありえないと思います。地元出身の先生が少ないのは不安要因ではありますが、学校の先生のせいというよりは、地域・家庭にも原因があり、成績に限らず不登校の増加にも表れているのではないかという懸念を持っています。

家庭への働きかけとして、教育委員、PTA、学校連名での保護者に対する働きかけや学力の状況に関する公表は手法の一つ。一方で、塾や習い事に限らず、勉強時間ほか、家庭学習が足りない現状を示すために、全国と比較した数値は探せないでしょうか。

全国で見ると成績を比較する弊害が出たから、国は公表しない方針に変えたと思うが、これまでも南相馬市はそうのように比較するような環境では無かったですし、程度の問題だと思いますので、改めて、本市の学力の現状を公表することについては、事務局で検討をお願いします。併せて、令和8年度予算編成時には本日の委員の皆様のご意見を踏まえ、対応していただければと思います。

最後に教育長から全体を通して何かございますか。

■教育長

教育委員会としては、校長先生方だけではなく保護者の方々と話す機会も必要かと感じました。教育委員会、PTA、学校連名のチラシも活用しながら、学校現場だけの視点ではなく、保護者の方々から本市の課題に対するご意見を聴きたいと思います。更に言えば、子どもたちとも話す機会も必要だと思います。

子どもたちに対し、「現状についてどう思っているのか」「将来を考えたときに今どのようにしたら良いのか」という視点で問いかけ、子どもを通じ、保護者の意識を変えていくしかないかと思っています。

■高野教育長職務代理者

最後に家庭環境の視点でご提案ですが、「ラーケーション（ラーニング＋バケーションを合わせた造語）」という制度が2023年に愛知県で始まり、大分県、茨城県

栃木県、沖縄県、山口県、熊本県で行われていると聞いています。

この制度はサービス業等で保護者が休みをとれず、土日に外出できないこどもに対し、山での自然体験や博物館へ行くなど「探究」や「学び」の活動をするという前提の下、平日に学校を休んでも欠席扱いにならないというものです。

是非ご検討いただければ幸いです。

■市長

参考とさせていただきます。

「その他」、事務局からありますか。

■参事兼企画課長

令和7年度第2回南相馬市総合教育会議について、お知らせいたします。

第2回については、令和7年11月21日（金）に今回同様、教育委員会定例会に続けて開催予定です。

本日いただいた様々なご意見について、教育委員会事務局による調査・整理の結果を報告するとともに、令和8年度当初予算編成に際し、具体的な事業案を議題とし、協議させていただければと存じます。

■市長

本日は多くのご意見を頂戴しましてありがとうございました。

事務局においては、本日欠席の和田委員からもご意見等を受け賜った上で、次回会議に向けて整理をお願いします。

進行を事務局にお返しします。

■参事兼企画課長

以上を持ちまして、令和7年度第1回南相馬市総合教育会議を閉会いたします。

長時間にわたりありがとうございました。

午後4時45分 閉会